

第1回「福井県文化振興プラン（仮称）」策定委員会 議事録

- 1 日 時 令和5年8月30日（水）13：30～16：30
- 2 場 所 福井県庁 7階 特別会議室（オンライン併用）
- 3 出席委員 委員名簿のとおり
- 4 事務局 福井県副知事 中村 保博
事務局：福井県交流文化部文化・スポーツ局 局長 猪嶋 宏記
〃 文化課 課長 三武 紀子 他4名
- 5 配布資料 別添のとおり

6 議事の経過および結果

(1) 開 会

中村副知事あいさつ

(2) 委員長の選出

「福井県文化振興プラン（仮称）」策定委員会設置要綱【資料1】の規定に基づき、委員長に朝倉委員が就任することを決定

(3) 議事1：福井県の文化芸術振興について

【資料2】により事務局から説明

(4) 議事2：意見交換

<出席委員の発言概要>

[委員]

- ・事務局案は体系的、総合的によくできていると思う。県民の文化芸術活動が地域経済の様々な分野に波及していくのだという絵姿も描いているが、実際にこれらをどう具現化していくかが非常に重要。今後の具体的なアクションプランに期待したい。
- ・観光、産業、まちづくりなどの実際の活動につながっていくような指標を立てておく必要があるのではないか。

[委員]

- ・具体的に現場でどう実践していくかが漠然としている。
- ・県内にはいろいろな活動があり、文化施設も数多くあるので、それらのネットワークを構築していくことも描くと、より多くの人にわかりやすい内容になるのではないか。
- ・「福井らしさ」「独自性」といった言葉は大きなイメージを描きやすいが、押しつけにならないよう注意が必要。

[委員]

- ・基本理念「文化芸術で福井をもっとおもしろく！」は言葉が軽すぎる。ぜひ変えていただきたい。

- ・数値目標に捕らわれすぎないように注意が必要。
- ・指標3「持続的に文化芸術活動を実践する活動者数」について、人口が減っていくことを考えると「活動数」にした方がよい。
- ・8つの基本方針とその中身が合っていない部分や、日本語の表現を変えた方がいい部分がある。

[委員]

- ・瀬戸内国際芸術祭や大地の芸術祭など、その地域のアートを代表するような柱が福井はない。それぞれの活動をお金を出して補助するだけでなく、何か一つにまとめていくようなことはできないか。
- ・もしそういうことができるのであれば、行政がやるというよりは、民間のデザイナーやクリエイターを巻き込んで、それをまとめるディレクターがいるとよい。

[委員]

- ・福井は共働きが多く、長時間勤務で親に余裕がない。家庭の中で博物館や美術館に行くなどといった文化的なことに時間をかけようという考えはとても低い。
- ・部活の地域移行が始まることをチャンスとしてとらえ、吹奏楽などに携わってきた人が地域でクラブチームを作るなど、様々な形で子どもたちに関わっていける可能性がある。

[委員]

- ・事務局案は全体的に総花的で、具体的に何を目標しているかが伝わりにくい。
- ・福井らしさも大切だが、福井一県だけでできることは限られており、県の中で自己完結してしまうような取組みばかりではダイナミズムがなくなってしまう。
- ・ハードにお金をつぎ込むことは避けて、人材育成を含めたソフトに力を入れるべき。
- ・日本には何もしなくても素晴らしい景観が多数あるのに、わざわざお金をつぎ込んで景観を壊し、価値を下げるようなことが行われてきたので、注意してほしい。
- ・プラン策定にあたっては、外部の優れた人材から意見をもらうのも重要だが、それを受け入れて実行する側の人間（県庁職員）の能力や知見、推進体制がそれ以上に重要であることに注意してほしい。

[委員]

- ・プラン策定にあたって、どのように県民の合意形成を図っていくかが重要であり、パブリックコメントだけでなく、小さい単位での意見交換会もやっていく必要がある。
- ・Society5.0の到来に向けて価値を創造していく人材の育成が必要。
- ・フランスではアーティストの制作場所の家賃支援など、細くて長い支援があり、だからこそ世界中からアーティストが集まってくる。必然的にアーティストや創造的な活動に関わる人が集まってくるような仕組みもプランの中に盛り込んでいけるとよい。

[委員]

- ・地域の歴史は何ものにも代えがたい地域の財産。誰かが発掘しないと忘れ去られてしまう歴史を発掘し、自信を持って周囲に伝えていけるような取組みが必要。

- ・中小企業の立場からいうと、地域課題の解決に寄与することを念頭におき事業活動をしていないと生き残れない。福井の文化芸術振興に関わりたい気持ちも十分にあるが、ボランティアではなくビジネスとして関わる方法を検討していく必要がある。

[委員]

- ・中学校の美術部員は増加しており、何かを表現したいという子どもは多いので、地域の中で発表の場が作れるとよい。
- ・県内にはたくさん文化施設があるということなので、展示や公演を見るだけの場所ではなく、日常的に足を運べる場所、そこへ行けば地域のアーティストと交流できるような場所にできるとよい。

[委員]

- ・事務局案は総花的、優等生的な印象で、特徴に乏しい。
- ・指標について、文化関係の満足度などは全国的な傾向と大きな違いはないので、数値でない考え方も必要ではないか。
- ・近代型の美術館の在り方は限界にきており、機能や在り方を大幅に見直すべき時期に来ている。地域の人にとって、「素晴らしいものを見に行く場所」ではなく、「自分たちの施設」「自分たちが支える、担っていく場所」になっていくように、シェアリングマインドを育成していく必要がある。
- ・福井県でも過去に成功したアートプロジェクトがある。それらをモデルとして検証し、参考にして何ができるかを考えてみてはどうか。
- ・いきなり大規模に実施するのではなく、小規模でトライアル的にできる枠組みがあると、クリエイティブな活動が育っていく。

[委員]

- ・文化振興には当事者を増やすことが重要で、どれだけアーティストを支援してもなかなか鑑賞者が増えることはない現実を踏まえると、アートプロジェクトを企画する人、市民プロデューサーを育成していくことが必要である。
- ・アーティストを支援する間接投資から、県民のアートプロジェクトを支援する直接投資に軸足を移していくべき。
- ・福井らしい特徴を出していくためには、ジャンルを超えたアートプロジェクトのフェスティバルのようなことをやるとよいのではないか。
- ・県内には優れた活動をしている文化施設が多数あるので、それらを総合化し、総合力を発揮していくことが非常に重要。
- ・プランを作るのと同時にアーツカウンシル的機能を持つ組織を作っていないと、プランの実現に向けた動きは進まないだろう。

※欠席委員からのコメントについて、【資料3】により事務局から紹介

[委員長]

- ・多様なご意見をいただいたが、まず一つはプラン自体の中身をどうしていくか。今の案は総合的ではあるが総花的であるというご意見があった。福井とは何か、福井でできることは何か、どんなポテンシャルがあるか、何をしていきたいのかということを確認にして方向性を決め、重点化を図っていく必要がある。
- ・プランを作った後にどう進めるのかという体制の問題については、総合政策として文化政策を推進していくにあたって、産業、教育、観光、福祉、さまざまな分野の人達とどう連携していくかを考える必要がある。
- ・策定自体の進め方について、パブリックコメント以外にも関係者との意見交換会などを開催し、県民との合意形成をしっかりと図る必要がある。
- ・文化政策の考え方の大きな転換が必要だということもご指摘いただいた。今までの良かったところは残しつつ、大転換を図る部分も必要だと感じた。
- ・事務局はいただいたご意見をもとに、次回までに骨子をまとめ直してほしい。

(5) 閉 会